


# 土方歳三の箱館戦争

歳三は、何度この橋を渡ったのか  
歳三のお蔭で、函館も少しは元気になっている気がする  
これも、司馬遼太郎の「燃えよ剣」に負うところが大きい  
「歴史を掘り下げる」など、大それたことではなく、  
日ごろ気になっていたことを載せてみました

2022.6.17 島田祥生



新撰組副長としての土方は、一世を風靡した剣客であった。天才的な剣のさばきに加え、天性の読み、統率力があつた。榎本武揚は土方を高く評価し、最も信頼していた。

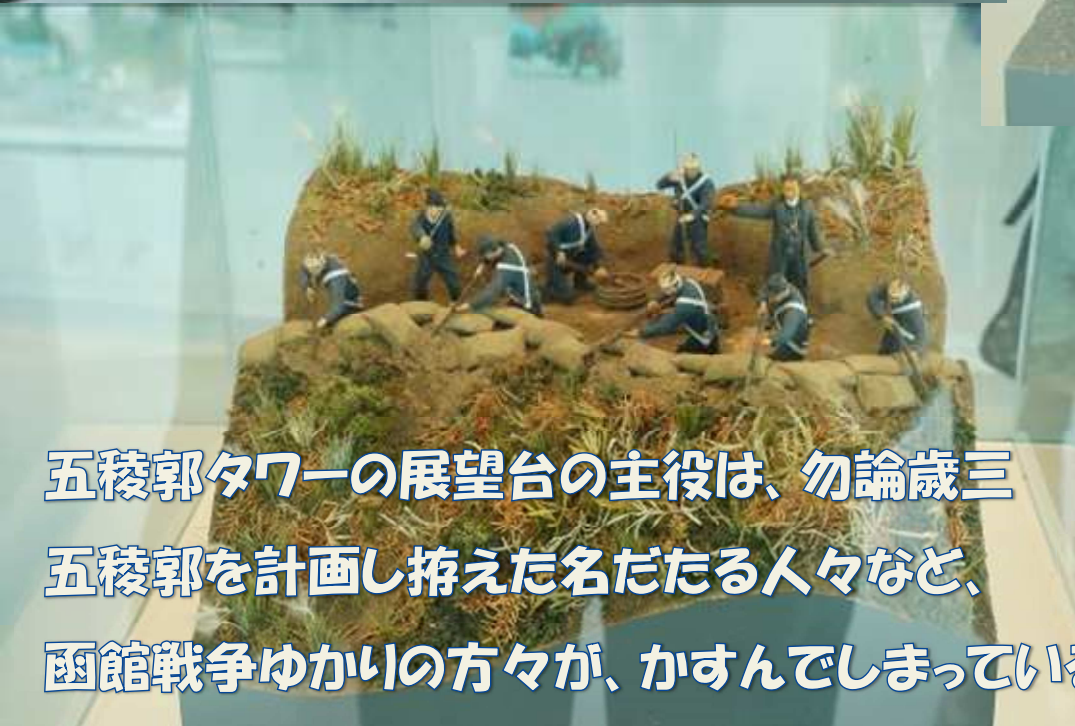
鳥羽・伏見、関東での戦い、会津戦争といつても修羅場をくぐってきた土方は、時代に対する同洞察力があつた。軍艦の開陽がある限り、蝦夷地は安泰だ、と考えついた。開陽を失った日から、いつか己も死ぬ、と土方は考えていた。

**復元された、「五稜郭奉行所」**

**内部も精密に復元されていて、一見の価値がある**

**当時、「蝦夷地共和国」を夢見た集団の財力は凄かったと思う**

**五稜郭降伏後、この建物は解体され、札幌に送られた**



五稜郭タワーの展望台の主演は、勿論歳三  
五稜郭を計画し拵えた名だたる人々など、  
函館戦争ゆかいかの方々が、かすんでしまっている



立待岬

碧血碑

稱名寺

谷地頭

函館どっく

弁天台場

歳三終焉の地

横山珈琲店

歳三の箱館での足跡を俯瞰してみた

かつて五稜郭にはこの写真に映っている博物館分館があり、

2階の一角に幕軍側の資料が展示されていた

その中心に、「血染めのチョコキ」があり、

土方歳三の・・・と書いていたように思う

博物館分館



五稜郭は、日本最初の西歐式築城法による、  
武田斐三郎の設計、監督によるもの。  
慶応四年閏四月二十四日（一八六八・六・  
一四）清水谷公孝が箱館府知事を命ぜられ、  
箱館府を開庁した。

現存の  
五稜郭の  
兵糧庫



五稜郭の中にある「兵糧庫」  
白壁の土蔵風に変えて、尤もらしくしている  
が、当時の姿を見せて欲しい

中高生のころ、虫捕りに夢中になり、同好会  
の一員として、ここの博物館に自由に入  
りしていた。

この兵糧庫は、分厚い板材がむき出しのまま  
博物館の講義・実習室として使われていて、  
同行会の集まりは、何時もここ

奉行所は、中枢だから威厳が必要だろうけ  
ど、兵糧庫は、「ものを入れるだけ」の機能



稱名寺の山門を通過して正面左にある

歳三と新撰組隊士の供養碑

稱名寺は、市電の終点の「函館とっく前」からほど近い、

外人墓地の途中の小高い所にある



## 土方歳三と新撰組隊士の供養碑

土方歳三（新撰組副長）は、榎本軍に加わり、箱館で戦死した。その場所是一本木（若松町）、鶴岡町、異国橋（十字街）など諸説あるが、土方ゆかりの東京都日野市金剛地の過去帳には、箱館称名寺に供養碑を建てた、と記している。

稱名寺は、明治期の大火で3回も焼けて碑は現存しないため、昭和48年（1973年）に有志が現在の碑を建立した。他の4名は新撰組隊士で、稱名寺墓地に墓碑があったが、昭和29年（1954年）の台風で壊されたため、この碑に名を刻んだ。

# 碧血碑

箱館戦争で戦死した土方歳三や中島三郎助父子をはじめ、北関東から東北各地、箱館での旧幕府脱走軍戦死者の霊を祀っているのが、この碧血碑である。碑石は、7回忌にあたる明治8年(1875年)、大鳥圭介や榎本武揚らの協賛を得て、東京から船で運ばれたもので、碑の題字は、戦争当時陸軍奉行であった大鳥圭介の書といわれている。

碑の台座裏に、碑建立の由来を示す16文字の漢字が刻まれているが、その表現からは、旧幕府脱走軍の霊を公然と祀るには支障があったことが推測される。

なお、碧血とは「義に殉じて流した武人の血は3年たつと碧色になる」という、中国の故事によるものである。

函館市



碧血碑から、市電の終点谷地頭に降いた  
電停前のお店のお姉さんが手を振ってお見送り  
ここにあるインスタントの「箱館ラーメン」が美味しい



# 弁天台場

初め松前氏がこの地に土塁を築いて名場とした安政元年(三)箱館奉行竹内保徳、堀利源等は幕府に申請して予算十萬兩で台場を築造することに成り、三年河津三郎太郎等をして工事を司らしめたり、概要は次の通りである

設計管理 山田重行(支那) 武田斐三郎(成章)

名場の形状 不等辺六角形

面積 一万一千六百一十一坪(三六〇二〇余)

周囲 三百九十間二尺余(七〇九尺余)

水面上の高さ 三十七尺(二一メートル余)

備 六ヶ所(北三座、西三座、南三座、計備砲五座)

明治元年旧幕府脱走軍は此の名場を占領し、永井玄蕃が主将となつて守つた。

明治二年官軍と戦ひ五月糧食弾薬盡きて軍門に降つた、函館府は函衛隊を置いたが、その後開拓使が替つた。

六年陸軍省の所管に移り二十年四月備砲を撤去した、明治二十九年函館港湾改良工事のため地名を毀ち外郭を埋立てて市街地を設けた(山田トラス会社はその一部にある)

昭和五十年八月

社団法人 函館文化会



弁天児童公園の弁天台場の解説板

明治2年5月11日の激戦で、新選組はこの弁天台場に孤立籠城した(古写真)



弁天台場 箱館港を睨んだ要塞

歳三は、孤立したこの台場の隊士救出に向かう途中で戦死

箱館山を越えてきた新政府陸軍と、海からの攻撃であえなく陥落  
これにより、箱館戦争の帰趨が決した

# 歳三 終焉の地

●大門・海峡

## 土方歳三最期の地

新撰組副長として、京都での土方歳三の活躍は華々しいものがあった。明治元年（一八六八年）一月、鳥羽伏見の戦に敗れ、流山（千葉県）で近藤勇とたもとを分かち、同志とともに大島圭介の部隊に加わったが、会津の戦に敗れ、仙台で榎本艦隊と合流、箱館では陸軍奉行並に選ばれた。箱館戦争中、最も激戦といわれた二股峠ふたまたたけの戦では、最後まで官軍を寄せつけず、土方の真価を遺憾なく発揮した。

五月十一日、一本木の関門からわずかの兵を引き連れ、同志を救出しようとうって出たが、馬上、腹部に銃弾を受け壮烈な戦死を遂げた。時に三十五歳。最後まで己の節を曲げず、幕臣以上に活躍し、死に場所

を箱館に求めたことも人気を高めた一因であろう。この碑は、昭和三十三年若松小学校横に建てられたが、昭和四十五年、現在の若松町グリーンベルトに移築された。付近は、かつて一本木と称せられていた。





歳三終焉の地にほど近い宮前町にある、  
高校の後輩が40年間営んできた珈琲店  
珈琲しかない



ものすごくうまい

メニューは、まるで化学の教科書

焙煎は、手動(写真下)

棚にある珈琲茶碗は名品ぞろいだが、

注文の量によって決めるだけで、

お客の好みは推し量らない



# 五稜郭タワーから見た函館山

この下で、維新最後の壮絶な戦いが繰り広げられていた

土方歳三！ よくぞ函館の地に来てくれた



引用：

- ・箱館五稜郭 成美堂出版
- ・はこだて歴史散歩 北海道新聞社
- ・箱館戦争のすべて 新人物往来社
- ・写真集 新撰組始末記 新人物往来社